

具体的留意事項 1

(1) 段階確認について

段階確認は、山梨県の基準に従って下記の段階で行います。

- 1) 丁張り・・・高さ、位置:幅員
- 2) 床付け、掘削出来形、表土鋤取り完了、購入表土下基盤出来形、畑土表土復旧下基盤出来形
路床置き替え掘削出来形。(出来形と同時に床付け面の土質等の確認もしますので排水処理を
しておいて下さい)
- 3) 埋め戻し前
地中部の出来形、不純物の有無、埋め戻し層厚マークなどの確認。 **昭和町の巻き出し厚は20cmです。**
- 4) 鉄筋組み立て(現場打ち集水枡、大型水路基礎コンクリート他)
配筋状況、鉄筋の種別、被りなどの確認。(VS側溝は上被りなので注意して下さい:下に大きいスペースが必要)
- 5) その他関係仕様書類、指示及び要請による場合
照明灯基礎アースの抵抗値他
搬入材料の検査:検測

監督員・施工管理者との打合せにより、写真・データで可の場合もあります。

(2) 環境アセスメントへの対応

盛土の搬入を、120台/日(H20.1月以降 60台/日)と規制されています。調整が必要な場合は、施工
管理者まで連絡して下さい。
ほこり対策として、風の強い日は荷台にシートカバーを掛け運搬によってほこりをださない努力をして下
さい。

- (3) 仮設工事、擁壁工事など、設計書の通り施工することが出来ない又は施工する必要がない場合もあります。
事前調査での不明点や疑問点がありましたら、現地立ち会いの連絡をお願いします。
(早期決定のため、必要となりそうな最小限の調査や改善案作成をお願いします)

(4) カーブ中の道路幅員管理及び側溝の設置について

カーブ中の街区点は、測点とは関係なく、また内側と外側の位置関係を考慮せず下図のように設定さ
れています。



SL=20mm以下になるように街区点間距離は設定しています。

このため、道路幅員は±20mmの誤差が生じるので、街区点間距離の変更を最小限にしてまた側溝との
ズレを最小限にした調整をして工事打合せ簿で施工図の承認を取って下さい。

注 測量データ(街区測点データ)では街区点は、左右無関係に設定されています。
街区点数の増を出来るだけ少なく、左右対称になるように設定し直して道路幅員が±0に近づくように
して下さい。

(5) 道路線形について

特に境界沿いの道路線形は、図上において直線に見えても折れている場合がありますので、前もって
座標計算して調べておいて下さい。

(6) 道路、側溝関係

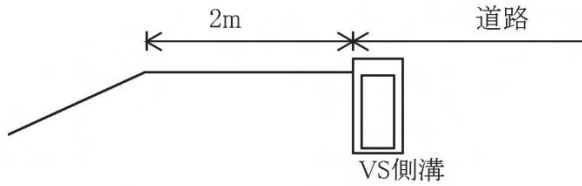
- 1) 村西部は路床CBRを6として舗装構成(路盤を含め)の設計がされています。(路床は砂礫土に近い
ものとして設計)路床掘削・盛土・整形の段階で路床CBR6が確保されているか確認して下さい。
確保されていない場合は施工管理者と協議してください。

原則

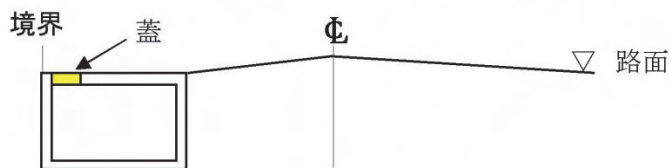
路床CBR3未満路床改良実施等 協議
路床CBR3以上4未満.....下層路盤厚:20cm
路床CBR4以上6未満.....下層路盤厚:15cm
路床CBR6以上下層路盤厚:10cm

資料No.1-3

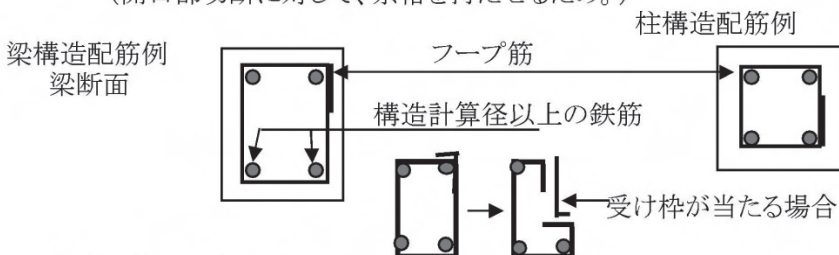
- 2) 従前の地盤より道路が高くなる場合で隣接する区画の整地を行わない場合は、新設する側溝が不安定となりますので、区画側に押さえ盛土を行います。
従前地表面の処理の後、上巾2mで1:1.5勾配の台形の形状で押さえ盛土を行います。
押さえ盛土材は、施工管理者と協議して下さい。



- 3) 標準部のAs舗装の横断勾配は、原則として1.5%を確保して下さい。
結果として $1.5\% + \alpha$ はOKです。
- 4) 下層路盤厚が設計で10cmの路線があります。この路線の設計CBR値が6以上としています。
路床部のCBR値が6以下の土砂の場合は、立ち会いにより路床入れ替え・路床改良・下層路盤厚などを変更する場合があります。
また下層路盤厚が10cmの場合、使用材料はC30-0を設計で指定されますが、県内においてはC30-0はほとんど生産されていませんので、請負会社よりRC40-0を使う代わりに下層路盤厚保を12cmに金額変更なしで施工する旨の協議書が提出された場合は、承認される場合があります。
- (7) 歩道側溝・柵のグレーチング蓋について
都市計画道路南北線と乗り入れ部を除き、歩道側溝グレーチング蓋と集水柵グレーチング蓋の荷重仕様は設計通りT2とします。但し各宅盤毎に設置する歩道乗り入れ部は、T14仕様とします。
さらに乗り入れ部内の集水柵のグレーチング蓋の仕様はT14とします。別途打ち合わせします。
都市計画道路南北線の歩道側溝グレーチング蓋及び集水柵グレーチング蓋の仕様はT14です。
- (8) 歩道付き道路の乗り入れ部グレーチングについて
乗り入れ部のグレーチングは、T-2からT-14に変更します。また集水柵についてはT-14に変更します。
出入口位置は随時連絡します、出入口が決まらない宅地については、画地の間口巾により、出入口箇所数が下記に基準により決まりますので、グレーチング数の発注の際考慮して下さい。
間口巾 20m以下・・・1カ所
30m以下・・・2カ所
48m以下・・・3カ所
48mより広い場合・・・1カ所/14m 配置は別途指示します。
- (9) 街区点の設標のチェックについて
工区境(出会い丁場)の街区点を設置する場合は、関係工区が各々使用する基準点から設標し、誤差をチェックし、監督員に報告して下さい。(誤差が大きい場合は調整をします)
- (10) 大型自由勾配側溝の蓋が中心にない場合は、蓋が道路センタから離れるよう境界側に配置して下さい。

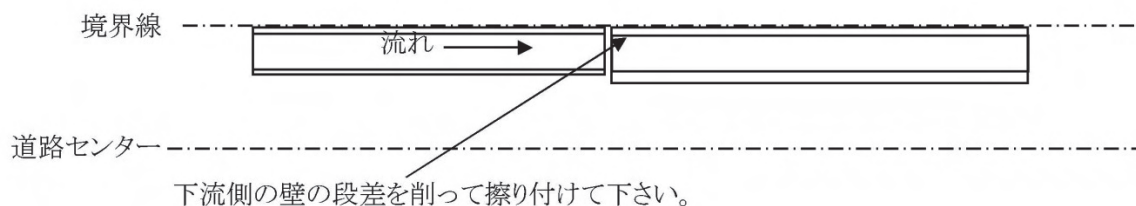


- (11) 現場打ち集水柵鉄筋について(大型の集水柵) 参考写真参照
鉄筋加工図、組み立て図は集水柵構造計算書(打合せ簿:協議 提出)及び仕様書に基づき作成して打合せ簿:協議で承諾を取って下さい。
補強鉄筋として、開口部周囲の他、梁形状になる場合及び柱形状になる場合は、梁配筋、柱配筋で組み立てて下さい。
構造計算書で鉄筋ピッチが200mmを越える場合は、最大ピッチを200mmとして下さい。
(開口部切断に対して、余裕を持たせるため。)



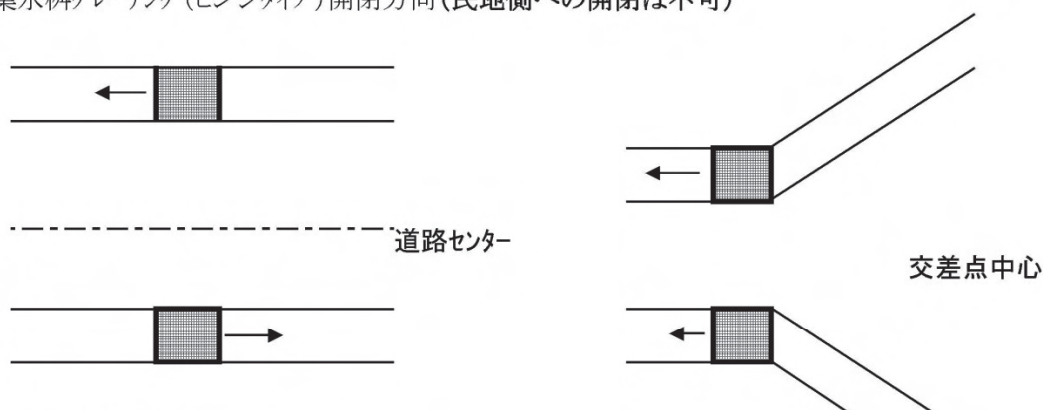
安定計算の参考ソフトのアドレス:www.civil-design.net/websoft/tekkin_hari_huku/index.html
荷重条件 25T (標準タイプのVS側溝と同一で可) 両端部固定

(12) 異なる規格の側溝の接続(ボックスカルバートを除く)



(13) L型街渠関係

- 1) 総幅員が少ない場合は、車道幅員を確保して、歩道幅で調整して下さい。
出来形は、測点管理とします。
 - 2) 起工測量時に設置済みの側溝の天端高:ELも調査して下さい。
側溝のELが新設街渠高と食い違いが大きい場合は、街渠高を調整する場合があります。
 - 3) エプロン現場打ち部の鍍仕上げにおいては、6%勾配の確保と勾配面が凸にならないよう注意して下さい。又乗り入れ部の段差は2cmですので注意して下さい。
 - 4) 各画地毎に乗り入れ位置と巾を図面化していますが、着工時に再度各地権者毎に確認を取って下さい。
乗り入れ口は基本的には巾:6mと8mの2種類で一般家屋の乗り入れ巾は6mで、商業施設の巾は8mまでOKです。
設置基準
間口 20m以下:1箇所 30m以下:2箇所 48m以下:3箇所
48mより広い場合 :1箇所/14m
 - 5) 南北線以外の道路は、前期の側溝工事において必要数のT14荷重のグレーチング蓋を設置してありますのでずれている場合は、乗り入れ口に合わせて掛け替えをお願いします。
また、T14荷重のグレーチング蓋が余った場合は、巻き込み部に掛け替えて下さい。
 - 6) 街渠樹のVP排水管は周囲に大きな石が当たらないように良質土で剣先スコップを使って十分に締め固めて下さい。検査時に下水管工事と同様にミラーを使ってたわみの検査をします。
 - 7) L型街渠の目地は10m以内を基本とし、また街渠樹箇所にも設置します。
各工区独自に目地間隔を上記以内にする事は可能です。
 - 8) L型水利を大型ボックスカルバート上に設置する場合のズレ止め・補強筋等の協議は可能です。
 - 9) 標準タイプの街渠樹(背面の側溝に配水するタイプ)については、泥溜は不要ですので、その分はコンクリートを埋めて下さい。
 - 10) 植栽樹用の支柱で2脚鳥居は設置しますが、1本支柱は不要です。(中木がサルスベリの場合)
- (14) 集水樹のグレーチング蓋について
T2強度の集水樹蓋部については、将来高強度のグレーチングに換えることが出来るような受け枠にしておいて下さい。地権者の出入り口が決定し次第グレーチングの仕様を連絡します。
- (15) 集水樹グレーチング(ヒンジタイプ)開閉方向(民地側への開閉は不可)



(16) 鉄筋組み立ての管理について

- 最近の県工事レベルに合わせた鉄筋の管理をお願いします。
- ・スパーサはコンクリート系の物を使用して下さい、プラスチック系は不可。
 - ・原則として鉄筋は、SD345となっています。
- 鉄筋購入検査時には、SD345の刻印を撮影して下さい(1つ星)。

(17) 起工測量

基準杭のチェック

基準杭は数十m間隔で設置されていますので、最初に基準杭のチェックをして下さい。
 基準杭が許容誤差内に収まっていることが確認されたら、次に街区杭、画地杭のチェックをして下さい。
 その結果を、打合せ簿(報告)にて提出して下さい。
 基準杭、街区杭、画地杭のデータ(座標値、距離、高さ)は予め渡します。

(18) 立ち会い、段階確認の申請は、口頭又はTELとし、打合せ簿は、不要です。

(19) 表土仮置き場

表土仮置き場は下記の3種類に分けていますが、工区毎には分けませんので、協力して仮置きして下さい。仮置き終了したらその都度整形して下さい。

1. 良質表土
2. 石混じり表土
3. 葦混じり土

残土の最終置き場は、土質により異なりますので事前に協議します。

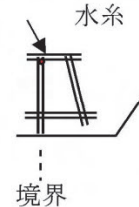
(20) 擁壁の施工について

道路沿いに各宅盤に設置する擁壁については、設置前に地権者の立ち会いを受けることになっています。
 立ち会いを受ける時期については、周囲の水路が完了し、盛土は購入盛土の下の基盤盛土整地が完了した段階とします。

立ち会い時の留意点

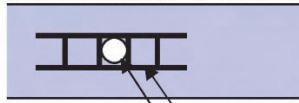
- ・ 水路埋め戻しヶ所や宅盤盛土に不純物、ゴミ、大石などを取り除く。
- ・ 擁壁丁張りは、擁壁の天端だけでなく、表面・裏面の表示もして
- ・ 水系を張って下さい。

わかりやすく説明をお願いします。地権者より設計書以外の要! ありましたら教えて下さい。



(21) フェンス用のスリーブについて

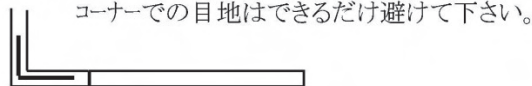
スリーブを取り付ける場合は、下図によって下さい。



ワイヤーメッシュ6mm 100*100 1段 L:40cm以上
 スリーブ管 標準部径75mm 角部径100mm 深さ:30cm

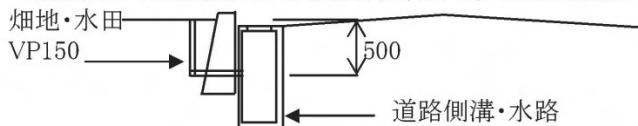
(22) クラック防止について

コーナ部や高さの大きな変化点などはクラックが発生しやすいので補強鉄筋などの処置をして下さい。
 目地間隔は、10m以内としています。小断面の構造物はクラックが入りやすいので、目地間隔は10mにこだわらず、短くして下さい。



(23) 擁壁工事

- ・ 畑地、水田復旧の場合は、スリーブ管(排水管)をL型に設置して下さい。水路への出口管底は地表から50cmとします。水路深さがとれない場合は、インバード上とします(上部にはVU用キャップ付け)。
- のり付けなし 地権者から別途要望がある場合は、施工管理者と協議して下さい。



- ・ 補償による移転先の宅盤に於いては、宅盤高、擁壁高、設置位置、出入口が変更になる場合があります。
- ・ 移転対象宅地については、予め図面を渡しますので、着手前に施工管理者に確認して下さい。
- ・ 擁壁のコーナ部の目地は目地材+ダウエルバーで接続して下さい、内角から離しての設置可。
- ・ 道路沿いの擁壁は出入口口決定のため、地権者の現地立ち会いを受けます。立ち会い時期は宅盤の基盤側溝、路床置き換え終了時を目処とします。
- ・ 立ち会い時には地権者にわかりやすい丁張り(擁壁の断面形状がわかるよう)を設置し水系を張って下さい。立ち会いの際は、地権者の余計なクレームや誤解を受けることのないようにしておいて下さい。(例:盛土面の不純物、巨石、不適土などの混入、締め固め不足、不陸など)
- ※道路側溝沿いの擁壁設置においては、側溝との隙間は型枠不要です。縁切り材も不要です。
- ・ 重力式擁壁のコンクリート打設においては、あばたが出ないよう、突き棒などで処置して下さい。

(24) 家屋、工作物等の支障物について

支障となる家屋や工作物はおおむね調査して補償交渉していますがいくつかは、未解決です。
 道路側溝や整地、擁壁との位置関係を調査していただき撤去移動が必要かを確認して報告して下さい。